

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

法人名	株式会社チャイルド・ピース
施設名	小鳩ナーサリースクール中馬込
施設所在地	大田区中馬込2-2-18

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光と影

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

本園では「夢中になって遊ぶ子ども～遊びを支える保育者の援助と環境について～」を令和7年度の園内研究主題として掲げている。1歳児から5歳児までが生活する中で、年齢や発達に応じて、自分の身の回りの環境に関心を持ち、遊びに取り入れる姿が見られる。

子どもは日々の遊びや生活の中で、太陽の光や室内の照明、物に映る影の動きなどに気づき、立ち止まって見たり、触れたりしながら確かめようとする姿が見られる。園庭はないが、室内環境や窓際の空間を通して、光や影の変化を感じ取る様子がかがえる。

こうした子どもの興味や感覚を大切に、光の当たり方や影の形の違いを、日常の保育環境の中で無理なく味わえるようにしていきたい。子どもが自分なりに気づき、試す姿を保育者がそばで見守りながら関わっていけるよう、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

4歳児 1回 (9月)

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

【環境】 子どもたちが光や色の変化に気付いたり、素材の感触を楽しんだりできるよう、スライム遊びを行える環境を設定した。また、光を当てることで見え方が変わるようにし、遊びの中で変化に触れられるようにした。

【素材・道具】 プラコップ、懐中電灯、ヘッドライト型懐中電灯、絵の具、ホウ砂、洗濯糊、ペットボトル、カラーペン

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【②問いを考える】

子どもたちに「スライムがキラキラになるにはどんな方法があるかな」と問いかけ、一緒に考えた。子どもからは「ラメを入れる」という意見も出たが、伸ばしたスライムを電気に当てると「光ってる」と発見する姿が見られた。この気づきをきっかけに、スライムを使って光を楽しむ活動の実践を計画した。

【③環境をデザインする】

作ったスライムを伸ばして懐中電灯を当てることが難しいという子どもの気づきから、ペットボトルの上部をそっと製作コーナーや資材コーナーに配置した。すると、子ども自身がそれを見て「スライムのお皿になる」と発見したため、マーカーなどの素材も追加で取り入れてみた。

【④探求活動を実践し、記録する】

「ペットボトルにカラーペンで好きな色や模様を描き、4人程度のグループに分かれて色のついたスライムを作る活動を行った。作ったスライムをペットボトルの中に入れ、懐中電灯で照らすことで、光の色づきや映り方の変化に触れられるようにした。子どもの取り組む様子を写真に収めたり、言葉や表情などをメモして、振り返りの際に活用できるようにした。

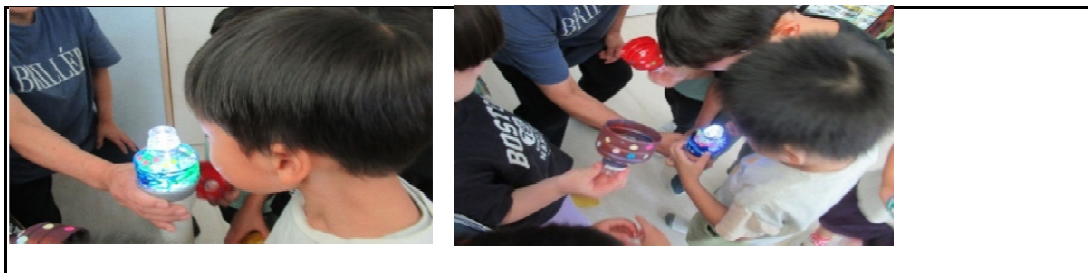
【⑤振り返る・共有する】

行った日中にクラス担任、主任、施設長等の保育者同士で感じたことや気づきを振り返ったり、写真を見て「どう感じていたか」などを子どもの目線に立って考えてみたりして振り返りを行った。話し合ったことをもとにすくわく会議で内容を周知した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

スライムに懐中電灯を当てると、色が光って見えることに気づき、「すごいね」「おもしろい」「ぼくたちの色も見て」などと保育者や友だちに伝える姿が見られた。さらに、光を当てながらスライムの中をよく見ると、気泡が見えることに気づき、「泡がキラキラしてる」と言葉にする子もいた。また、懐中電灯だけでなく太陽の光にも当ててみるなど、光の違いに触れ、不思議そうに関わる姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもの気づきや発見をきっかけに興味・関心が広がり、「次はこうしてみよう」と試してみる姿が見られた。また、その思いを保育者や友だちに伝え、一緒に関わろうとする様子もあった。懐中電灯と太陽の光の違いに触れる中で、子どもなりに不思議さやおもしろさを感じながら関わっていることがうかがえ、保育者が先導するのではなく、子ども自身の気づきから遊びが広がっていくことの大切さを感じた。